

残したい

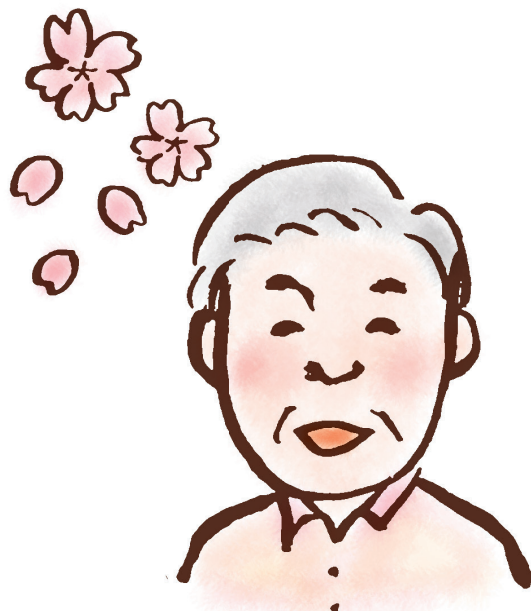
想いと風日京

高山市
一之宮町

旧宮村 元村長

大江 哲雄さん

臥龍桜を救うことができたのは
地域みんなで協力したおかげや
これからも守っていったほしいな



大切な桜の一大事

高山市一之宮町に生まれ育った大江哲雄さんは、飛騨牛に関する研究職を定年退職後、平成6年より旧宮村の村長になりました。

その少し前の平成3年から、「臥龍桜（がりゅうざくら）」の元気がなくなってきたことが地域の心配ごとでした。

研究職時代に何でも調べるクセがついていたので、「原因を突き止めなければ」と時間を見つけては木を見に行くようになりました。

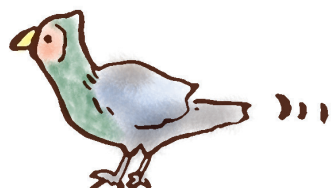
観察しているうち、鳥が根元をついばんでいないことに気づきました。周辺を掘ってみると、通気性が悪く水分の多い土で、ミミズがいまません。この土が桜に合っていないのでは？と思いが当たりました。

さまざまな異変

約 1,100 年 地域を見守ってきた
国の天然記念物「臥龍桜」の一大事。

※指定名称は「臥龍のサクラ」

観察し、原因を探りました。



気になる鳥の行動

根元をついばむ仕草をせず、走っている鳥に違和感を持ちました。土を調べると、ミミズがいないようでした。



ミミズがいない



台風の影響

樹勢が落ちたところへ台風の被害も。枝や幹が傷つき、一時は 230 本もの支柱が必要になりました。



花が少ない

満開の時期でも花がまばらでさみしい様子でした。

夏に葉が落ちる

樹の勢いが衰え、元気に茂るはずの季節にも葉が落ちるように。



よみがえった臥龍桜

その名のとおり
雄大な姿を取り戻しました



村長室は実験室？

さまざまな比率で炭を混ぜた土で植物を育て、成長を比較しました。



セラミック炭

間伐材や端材を細かく砕き、セラミックを加えて焼いた炭



分かってきた対策

古くから近所に住む人に話を聞くと、赤土を入れたことがあると分かりました。また、周辺で工事も行われたので、昔とは土質が変化していると考えられました。

調べていくうち、地元の間伐材や製材端材などから作られた「セラミック炭」で土の改良が出来るという話を聞きました。

さっそく村長室の片隅で植物を育てて実験をすると、炭を多く混ぜた土では水がきれいになり、根が3倍ほど大きく成長するという結果が得られました。

地元の農家にも依頼して試してもらい、データや裏付けも取った上で、これを桜の周辺の土に混ぜてみようという決めました。

村を回って説明し、協力

してくれる人材を育てながら、セラミック炭で土を改良する活動をすすめると、数年でミミズが姿を見せるようになりました。

柔らかく水をよく通す土の中で根が成長すると、枝や幹も丈夫になり、たくさんあった支柱を5分の1に減らすことができました。

ふたたび満開に

平成14年の春、ついに樹勢が回復し、満開の姿を見せてくれました。この美しい桜はテレビでも紹介されて感動を呼び、全国から見物客が訪れました。

瀕死の状態から復活した臥龍桜は、今も毎年見事な花を咲かせ、地域の宝として愛され続けています。

いま、
伝えたいこと



(文・絵
高山市
大森貴絵)

臥龍桜は、元村長だった父も大切に世話をしていたので、その姿を子どもの頃から見て育ったんやさ。当時から続く、種から苗を育てる活動では、たくさん子どもたちが想いを受け取ってくれて、とても頼もしく感じとるよ。

何年もかけて臥龍桜が復活したように、**すぐに結果が出なくても、足元だけでなく前を見てやることが大事。**これから若い人が地域の宝を守っていつてくれることを願っとるよ。